

巻頭言



代表取締役 執行役員社長

井上 晃夫 Akio Inoue

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

また、平素から「明電時報」をご愛読いただき、厚く御礼申し上げます。

ここ数年の当社事業環境には不安定な国際情勢を背景に一時的な下押し圧力があるものの、海外事業における経営体質の改善やEV事業の進歩など、「中期経営計画2024」の開始から2年間で確実に前進している手応えを感じています。

明電グループでは、この「中期経営計画2024」をジャンプのフェーズと位置付け、「質の高い」成長を目指した事業ごとの取り組みを推進しています。本号では、それら取り組みの成果をご紹介します。

電力インフラグループでは、電力・エネルギー事業で、高い温室効果を持つSF₆を使わないエコキュービクル形ガス絶縁開閉装置や脱炭素化に貢献する蓄電システムを納入しました。住みよい社会と産業の発展に貢献するため、環境に配慮した製品のラインアップを拡充していきます。

社会システムグループでは、電鉄用システム事業で、保守の効率化と省力化に貢献する架線検測装置を複数の国内鉄道会社に納入しました。水インフラシステム事業では、高効率最初沈殿池による下水エネルギー回収技術の実証研究を開始し、脱炭素化社会の実現に貢献します。

産業電子モビリティグループでは、電子機器事業で、高速真空自動コンデンサをリリースし、半導体製造プロセスの処理速度の向上と高精度化に貢献します。モビリティ事業では、中国に機電一体機生産の新工場を立ち上げ、現地生産・現地調達率を向上しました。

フィールドエンジニアリンググループでは、保守・メンテナンス事業で、新たなソリューションサービスとして非常用発電設備の燃料循環ろ過洗浄の提供を開始し、既存燃料を洗浄して廃油を発生させずに再利用することでSDGsに貢献します。

そして、これら事業を支える研究開発では、当社のパワーエレクトロニクス・知能情報技術・材料技術・共通基盤技術を深化させるとともに、将来を見据えて、当社の強みとなるコア技術・製品を創出します。

私ども明電グループは、今後も「環境」・「社会づくり」の分野で輝ける機会が多く存在すると確信しております。今後も明電グループを社会にとって一層価値のある存在に引き上げ、より豊かな未来を開いていきます。皆様方の変わらぬご支援・ご鞭撻をお願い申し上げます。